

学校の再生に向けて ～第1分科会の検討課題について～

資料1

教育を通じ、すべての子供が身に付けるべきものは「高い学力」と「人間力」と「規範意識」である。このようなゴールを目指し、学校の再生を図るためには、学校、保護者、地域、産業界が総力をあげて取り組む必要がある。

学校再生の鍵を握るのは、教員の質の向上、教育内容の充実、学校・教育委員会・国のシステムの改革、の3点である。教育の提供者の論理ではなく、子供たちの幸せを考えた教育を目指し、以下の3つの課題を検討する。

第一の課題は、教員の資質能力の向上である。

教員の資質能力の向上を図るため、教員養成課程から任用、評価、研修など、総合的に捉え検討する。また、指導力と人間力を備えた、熱意ある人材を、社会人経験者など教育界の外部に積極的に求め、教員集団を多様化する。現職教員については、良い教員を正当に評価し、処遇すると同時に、不適格教員が教壇に立つことがないように退出のルールを確立する。

第二の課題は、教育内容の改善と学習到達度の評価である。

子供の基礎学力を伸ばすため、ゆとり教育を見直し、授業時数の増加、教育内容の充実を図る。また、全国学力調査の早期分析を行い、学校現場への支援を行う。教育における現状把握・分析・評価・改善という一連の流れにスピード感を持って取り組む。

第三の課題は、学校、教育委員会のシステムの改革である。

各学校現場が一定の裁量と権限を持ち、努力と創意工夫をしながら切磋琢磨しつつ、学校運営を行うようにする。また、教員の人事制度、教育委員会の在り方、公教育への国や地方の責任、関与の在り方を見直し、学校現場のガバナンスの確立と活性化を図る。

第1分科会（学校再生分科会）では、第1次報告に向けた検討事項として、上記3点を一体的にとらえ、具体的な検討を行うこととする。